資料

第５次地域福祉計画の方向性

（骨子案）

墨田区　福祉部　地域福祉課

１．地域福祉計画の概要

（１）地域福祉計画とは

- 「地域福祉」とは、
  - 地域で暮らす住民同士の支えあい・助けあいの推進
  - 地域に存在する多様な主体が連携協働
  - 誰もが自分らしく安心して暮らせる地域をつくる
- 地域住民等が参加し、地域の様々な課題を明らかにしその解決に向けた仕組みをつくる計画
- 現計画（第４次地域福祉計画）…令和４～８年度

※ 本計画には、「重層的支援体制整備事業実施計画」「成年後見制度利用促進基本計画」も含まれる

１．地域福祉計画の概要

（１）地域福祉計画とは

基本理念	互いに尊重しあい、共に生きる支えあいの地域をつくる
基本目標	● 包括的に支援するしくみを強化する ● 区民が安心して暮らせる福祉のまちをつくる
重点取組	包括的支援体制を構築する

１．地域福祉計画の概要

（２）現計画の評価 ＜現在の事業の評価（評価別事業数）＞

92.1%がＡ評価であり、おおむね計画どおりに事業が進捗できている。

基本目標	取り組みの方向性	事業評価結果			
		A	B	その他	計
１ 包括的に支援するしくみを強化する	Ⅰ　包括的支援体制を構築する	2	0	0	2
	Ⅱ　地域活動を推進する環境を整備する	18	0	0	18
	Ⅲ　地域で支えあい、助けあうしくみを確立する	9	1	1	11
	Ⅳ　地域で安心して暮らし続けるための支援をする	14	0	0	14
２ 区民が安心して暮らせる福祉のまちをつくる	Ⅰ　災害時の支えあい・助けあいを推進する	5	0	1	6
	Ⅱ　誰もが心を通わす暮らしやすいまちをつくる	6	0	0	6
	Ⅲ　誰もが自由に行動し、社会参加しやすいまちをつくる	5	2	0	7
合計		59	3	2	64

■進捗状況評価基準
Ａ：計画どおりに進んでいる事業　Ｂ：計画に遅れが生じている事業
その他：見直しなどが必要な事業

（２）現計画の評価 ＜現計画の評価指標＞

多くが目標値には達していないものの、計画当初からの改善はしており、おおむね各取組は進捗している（詳細は別紙１のとおり）。

基本目標	取り組みの方向性	現状値の結果			
		目標達成	目標未達成	当初計画より改善	当初計画より下回る
１ 包括的に支援するしくみを強化する	成果指標	1	7	7	0
	活動指標	0	6	4	2
２ 区民が安心して暮らせる福祉のまちをつくる	成果指標	0	5	4	1
	活動指標	1	3	3	1
合計		2	21	18	4

（３）次の地域福祉計画に向けた考え方

- 地域福祉の基盤となる取組みについては、現計画の施策体系を継承し、継続性を重視
- 現計画の事業実績等を踏まえた今後の課題への対応
- 国や都の動向を踏まえた関連施策の見直し
（重層的支援体制整備事業、成年後見制度等）
- 墨田区地域福祉計画に関するアンケート調査等で見えてきた課題への対応
- 地域活動を推進するうえで、特に重要な担い手・居場所への対応

２．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

（現計画の体系図との関係は別紙２のとおり）

2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

２．主な課題と方向性

①　包括的支援体制の充実

＜近年の社会状況＞

- 単身世帯の増加等の社会情勢の変化
- 地域における支えあい機能の脆弱化
- ８０５０問題や高齢者虐待など複雑化・複合化した課題が増加
- 複数の制度の対象から外れてしまう制度の狭間のケースが顕在化
- 福祉分野以外との連携・協働の強化を国が求めている

- 区の支援会議に挙げた課題事例の内訳（令和３～８年７月）

ひきこもり（8050を含む）	高齢多世代	不登校	ひとり親多子世帯	ごみ屋敷	ヤングケアラー	その他
３３	１９	１４	１２	１０	８	４５

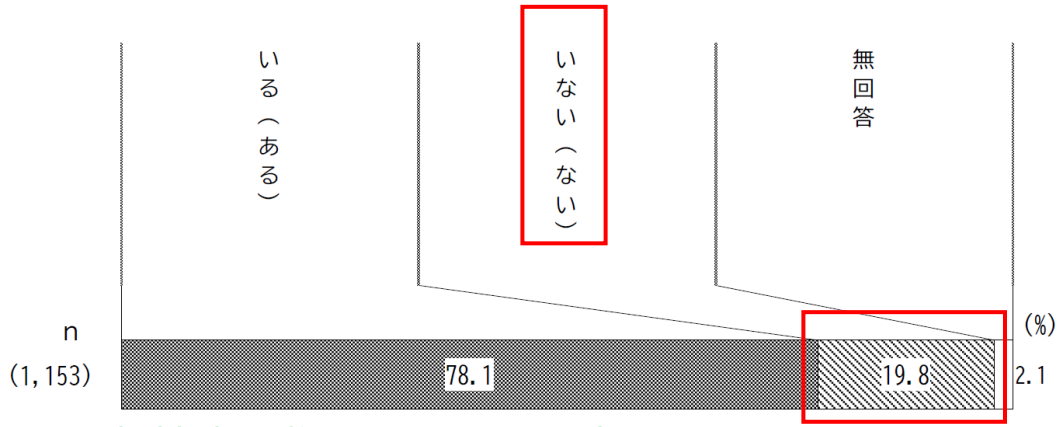
2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

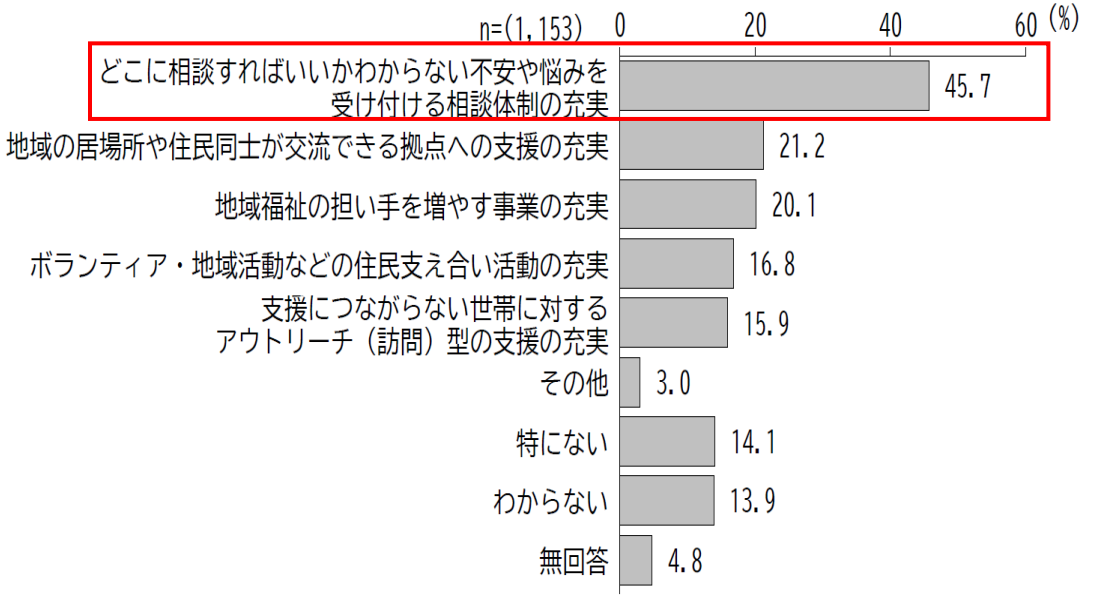
＜アンケート結果＞

- 「相談できる人がいない」が２割近く
- 区に力を入れてほしいことは「どこに相談すればいいかわからない不安や悩みを受け付ける相談体制の充実」が最も多い

悩みを相談できる人（場所）の有無



地域福祉を推進する上で区に力を入れてほしいこと



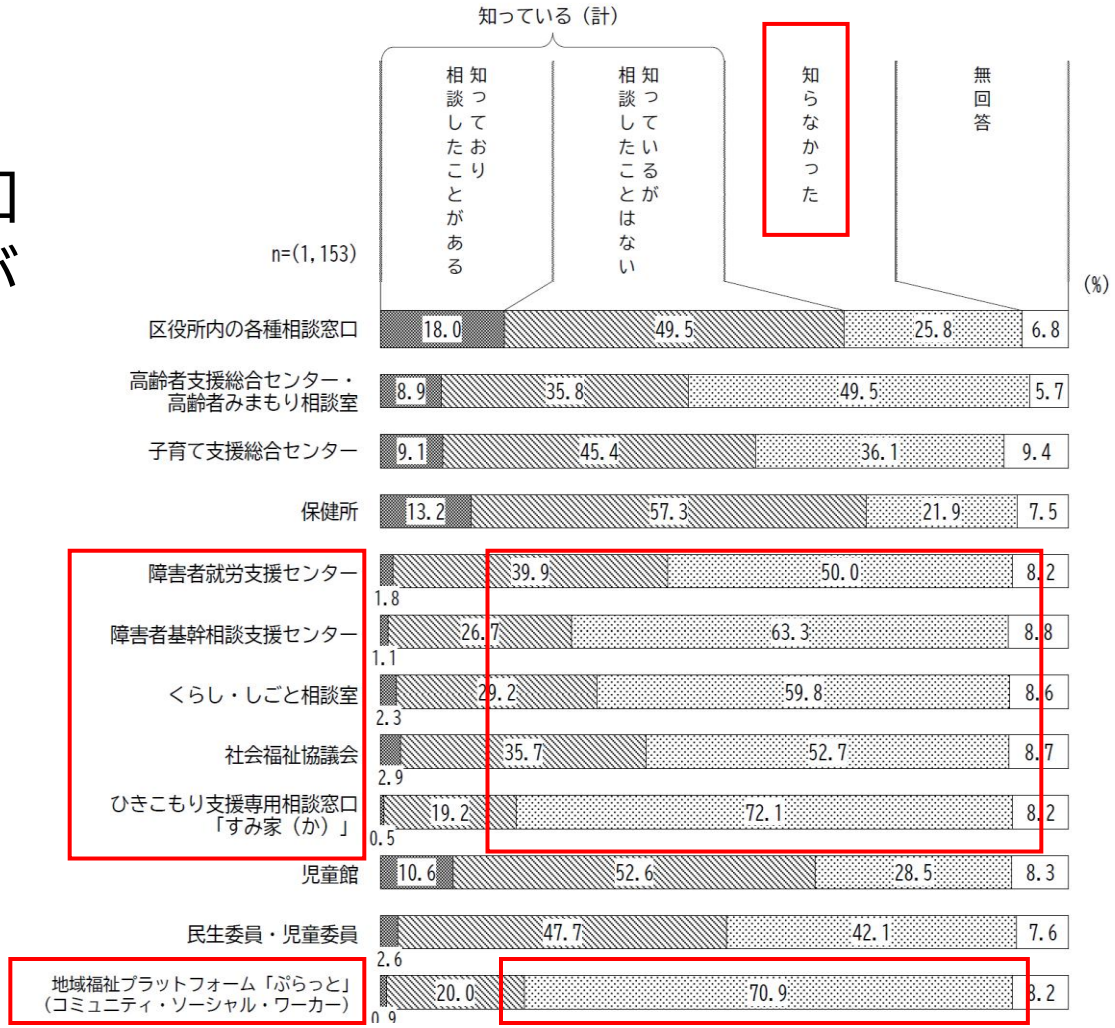
2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

＜アンケート結果＞

◆公的な相談場所の一部は認知度が低い（半数以上の方が「知らなかった」と回答）

相談場所の認知状況



① 包括的支援体制の充実

＜今後の方向性＞

- 従来の福祉分野のみならず、こども、教育、住宅など様々な機関が連携・協力することで相談に柔軟に対応できる体制の強化

- 地域福祉プラットフォームと連携することで、地域の課題や困りごとを把握することによる、関係機関同士の円滑な情報共有や課題解決のための充実

2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

2．主な課題と方向性

②　活動に参加しやすい仕組みづくり

＜近年の社会状況＞

- 地域における助けあい、支えあい機能の脆弱化
- 特に地域活動への若い世代の参加が少なく、世代間のバランスの偏りだけでなく、活動の継続が課題

- 墨田区におけるボランティア登録数

年度	元	2	3	4	5	6	7
個人ボランティア登録者数	473	501	322	479	593	381	570
ボランティア団体会員数	1249	1254	1127	1063	1068	1087	1111

②　活動に参加しやすい仕組みづくり

＜近年の社会状況＞

■ ボランティア活動自体ではないが、関連イベントの運営方法の工夫によって、若い世代の参加を増やしている例もある

■ すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム参加者の年代

年度	元	2	3	4	5	6	7	8
20～40代	17％	コロナで中止	6％	14％	27％	31％	26％	49％
50～80代	83％		94％	86％	73％	66％	74％	51％

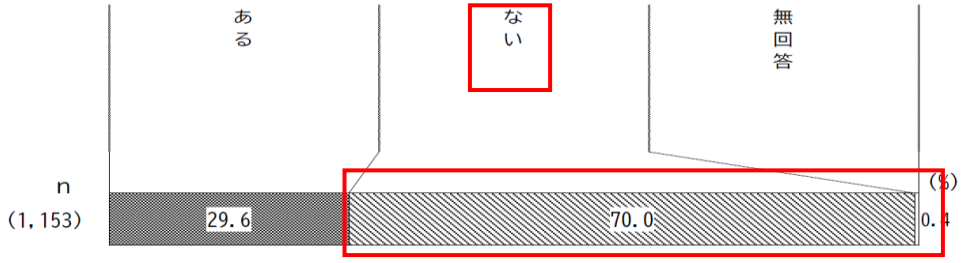
2．主な課題と方向性

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

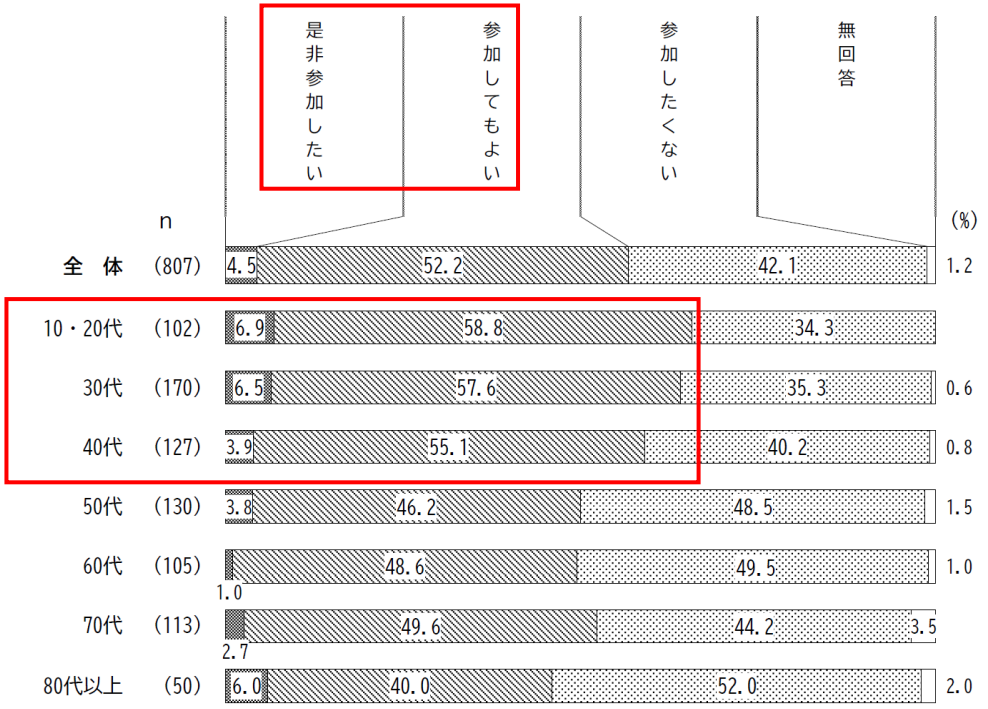
＜アンケート結果＞

- 地域活動等への参加経験が「ない」区民は７割
- 参加経験がない人の参加意向は10・20代～40代の比較的若い世代で５割を超えている

地域活動やボランティア活動への参加経験の有無



活動への参加意向（年代別）



② 活動に参加しやすい仕組みづくり

＜アンケート結果＞

◆ 地域活動等への参加経験がない人の参加意向は、中学生・高校生アンケートでも５割を超えている

活動への参加意向

	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
18歳以上アンケートのうち、10・20代	6.9%	58.8%	34.3%	0.0%
高校生アンケート	5.0%	59.0%	35.0%	1.0%
中学生アンケート	5.0%	55.0%	39.0%	1.0%

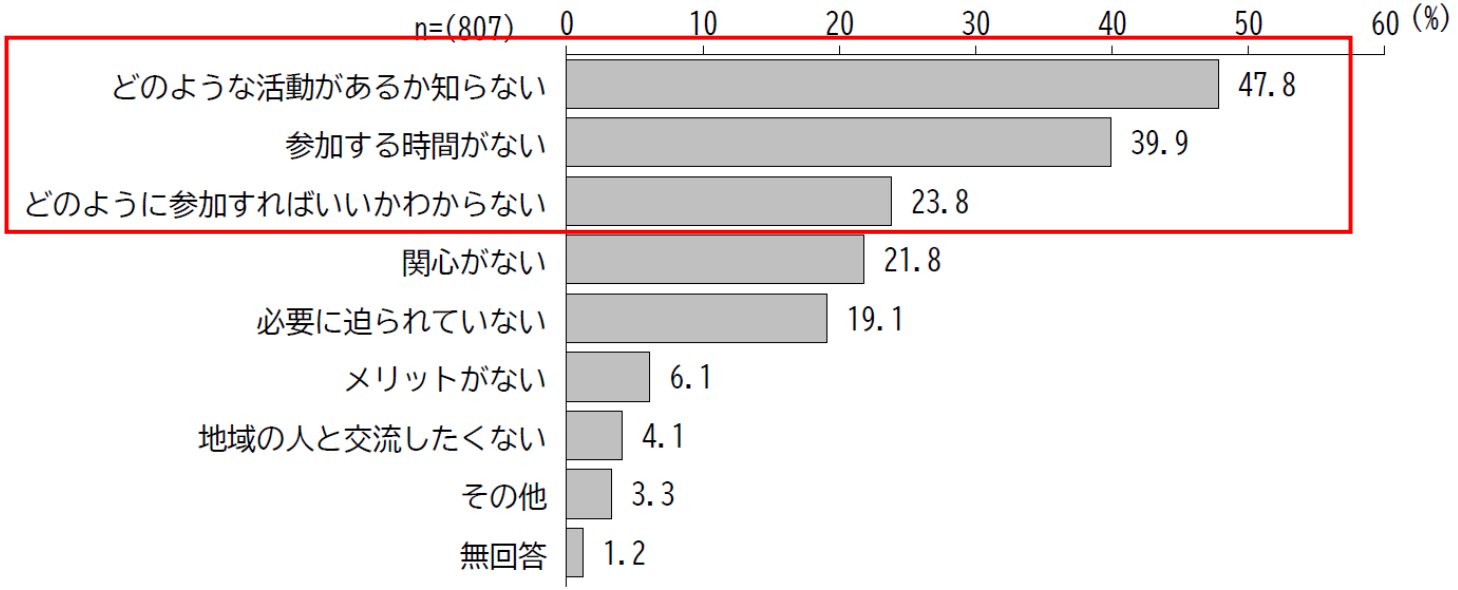
2．主な課題と方向性

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

＜アンケート結果＞

◆ 参加経験がない人の参加しない主な理由
「どのような活動があるか知らない」（47.8%）
「参加する時間がない」（39.9%）等

活動への参加意向



② 活動に参加しやすい仕組みづくり

＜今後の方向性＞

- 「ミスマッチ（情報・時間・参加方法等）」の解消
- 新規層が参加しやすくなるように、負担なく柔軟に活動へ参加できる仕組みづくり
- 若い世代の方に地域活動やボランティア活動に参加してもらう取組

2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

③ 地域の居場所・交流の強化

＜近年の社会状況＞

- 高齢者の一人暮らしの増加や外国人住民の増加、地域や家族のつながりの希薄化により、孤独・孤立が深刻化
- 誰もが地域で孤立せず安心して暮らせる環境づくりが課題

- 区内の地域福祉プラットフォームの年間利用延べ人数

5年度	6年度	7年度
4，076人	6，230人	6，275人

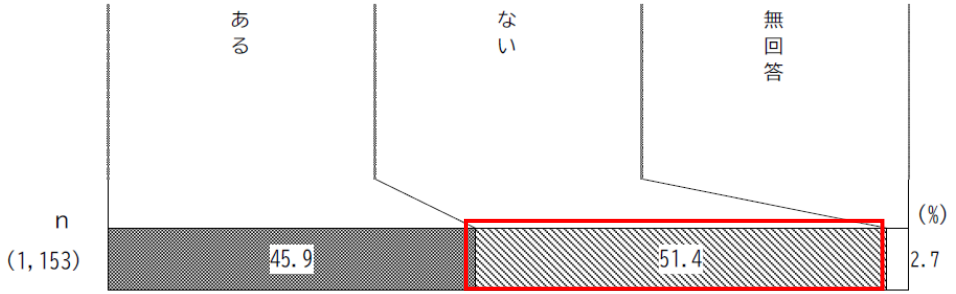
③ 地域の居場所・交流の強化

＜アンケート結果＞

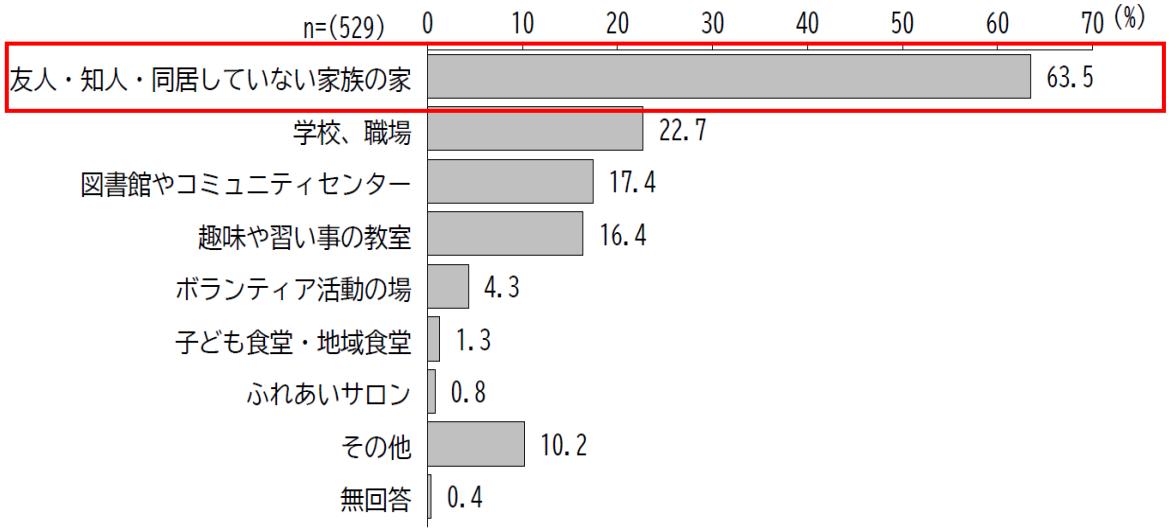
◆自宅以外の「居場所がない」と答えた人は５割以上

◆居場所が「ある」と答えた人も「友人・知人・同居していない家族の家」が６割以上と身近な人中心

自宅以外の「居場所」の有無



自分の居場所

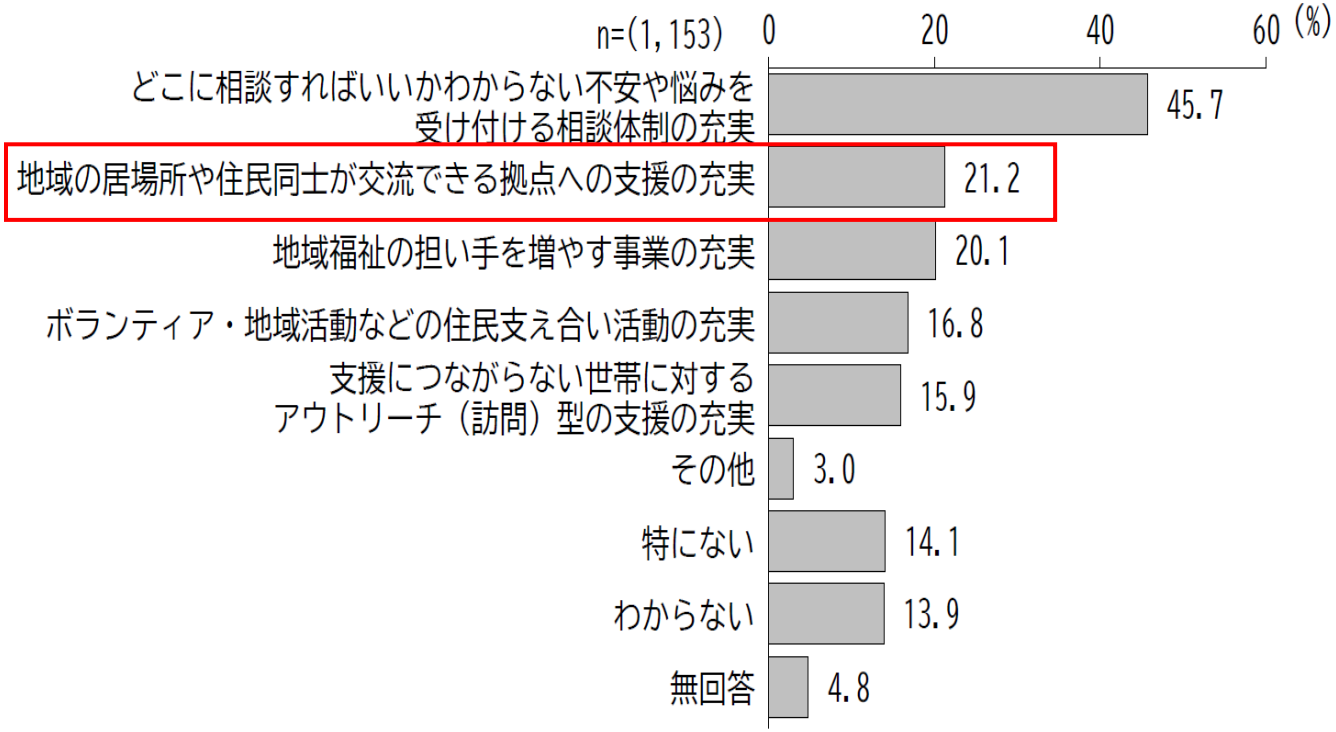


③ 地域の居場所・交流の強化

＜アンケート結果＞

◆区に力を入れてほしいことで「地域の居場所や住民同士が交流できる拠点への支援充実」（21.2%）が２番目に高い

地域福祉を推進する上で区に力を入れてほしいこと



③ 地域の居場所・交流の強化

＜今後の方向性＞

- 地域福祉プラットフォームやふれあいサロン等の拠点整備が進められているものの、これだけでは効果が十分とは言えないため、既存事業の見直し、オンライン空間の活用等も検討していく

2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

＜近年の社会状況＞

- 日常生活、入院・入所の手続や死後事務などは、既存の制度だけではカバーしきれない。
- 法改正による、成年後見制度の見直し、新たな第二種社会福祉事業の創設

- 区のひとり暮らし高齢者等の推移

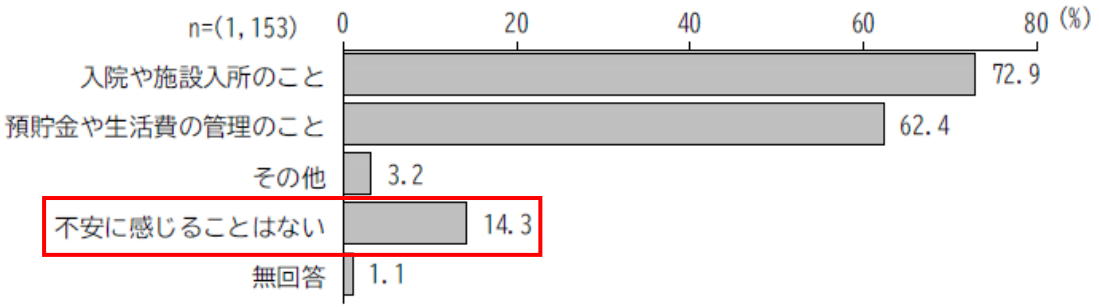
	5年度	6年度	7年度
ひとり暮らし高齢者数	22,938	23,157	23,313
成年後見の区長申立件数	89	88	91
行旅死亡人等取扱人数（引取人のいないご遺体）	41	54	58

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

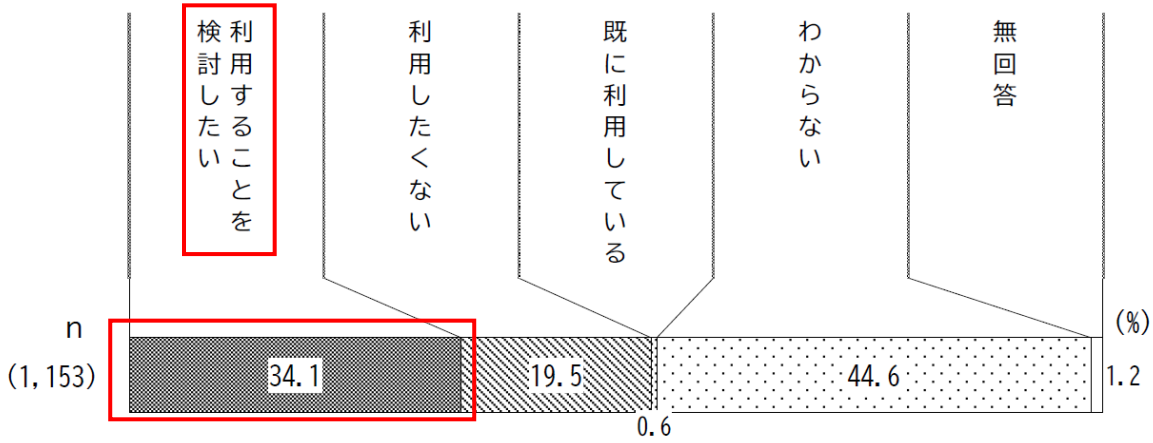
＜アンケート結果＞

- 自分や家族の判断能力が低下した際に不安がある区民が約８割
- 成年後見制度を「利用することを検討したい」は約３割

自分や家族の判断能力が低下した際の不安



成年後見制度の利用意向



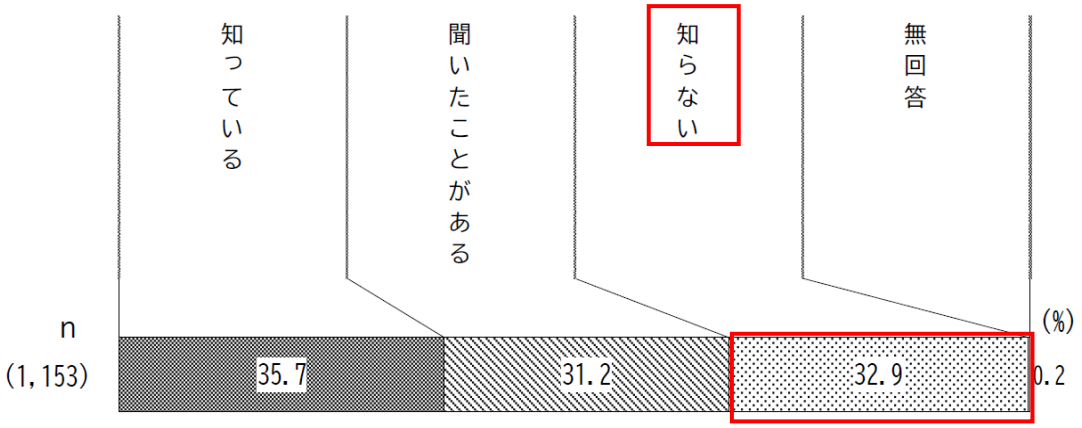
※自分や家族の判断能力が低下した際に「不安に感じることはない」と回答した人も含む

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

＜アンケート結果＞

◆ 成年後見制度の認知度は高いとは言えない（「知らない」が約３割）

成年後見制度の認知状況



2．主な課題と方向性

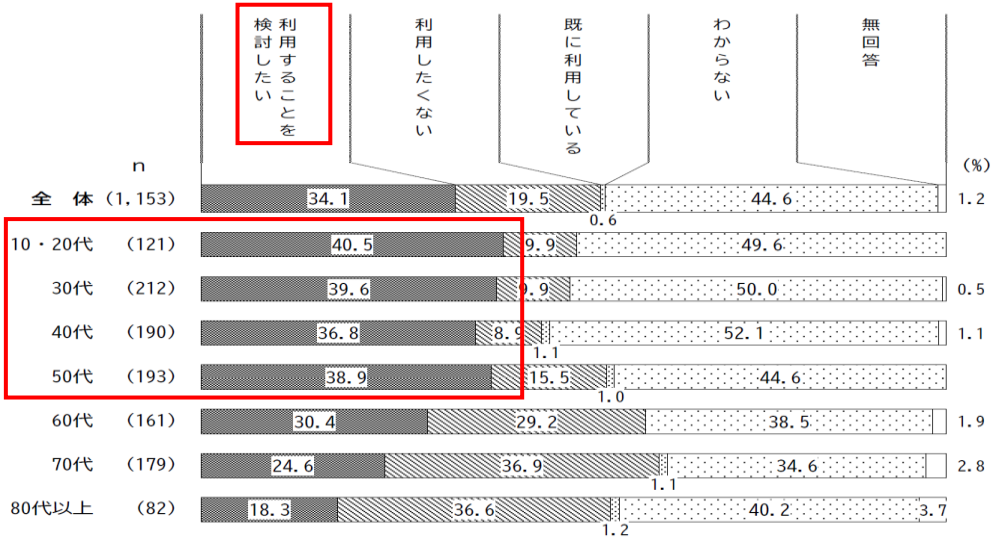
④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

＜アンケート結果＞

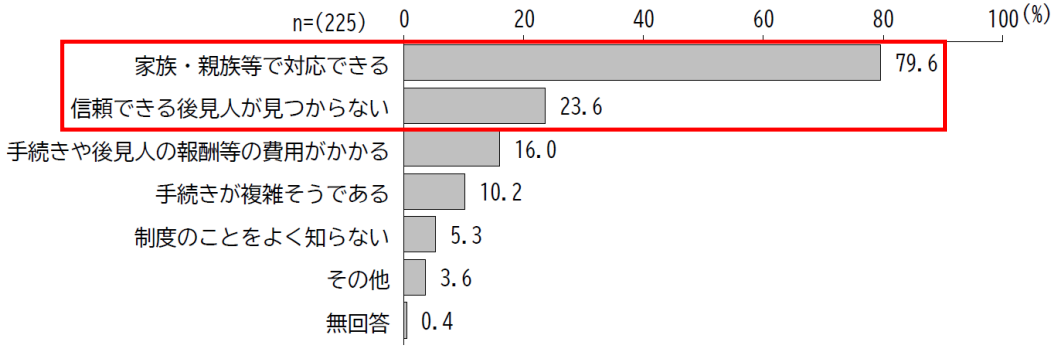
- ◆ 若い世代ほど利用意向が多い
- ◆ 利用したくない理由は「家族・親族等で対応できる」（79.6%）

「信頼できる後見人が見つからない」（23.6%）

成年後見制度の利用意向（年齢別）



成年後見制度を「利用したくない」と回答した理由



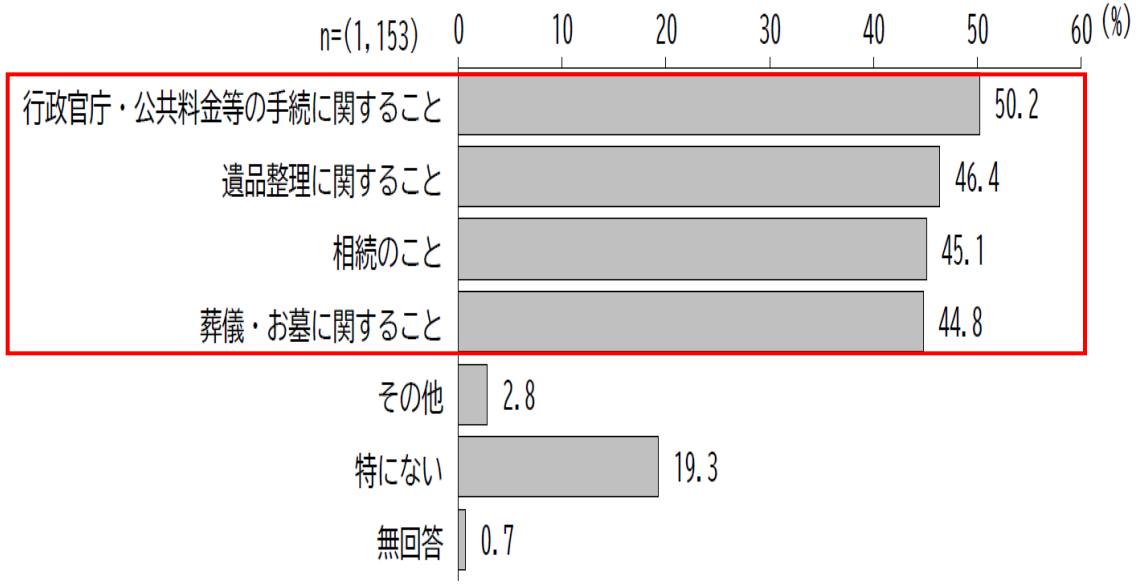
2．主な課題と方向性

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

＜アンケート結果＞

◆ 亡くなった後に不安がある区民が約８割
（公共手続、遺品整理、相続、葬儀・お墓への不安がそれぞれ約半数）

自分や家族が亡くなった後の不安



④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

＜今後の方向性＞

- 成年後見制度等のより一層の周知啓発
  （認知度・制度理解の向上）
- 成年後見制度等の利用促進
- 終活等に関する支援

2．主な課題と方向性

① 包括的支援体制の充実

② 活動に参加しやすい仕組みづくり

③ 地域の居場所・交流の強化

④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応

⑤ 多様性の視点

⑤ 多様性の視点

＜近年の社会状況＞

- 価値観やライフスタイルの多様化、人権意識の高まり、グローバル化など、だれもが社会参画できる環境づくりが進んでいる
- その一方で、違いへの理解不足から孤立や排除が生じ、交流や支援につながりにくい状況も生じている

- 区の人口の推移

	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
全人口	276,800	282,085	285,784	287,969
外国人人口	11,923	14,225	15,960	17,806

- 区の単身世帯の割合

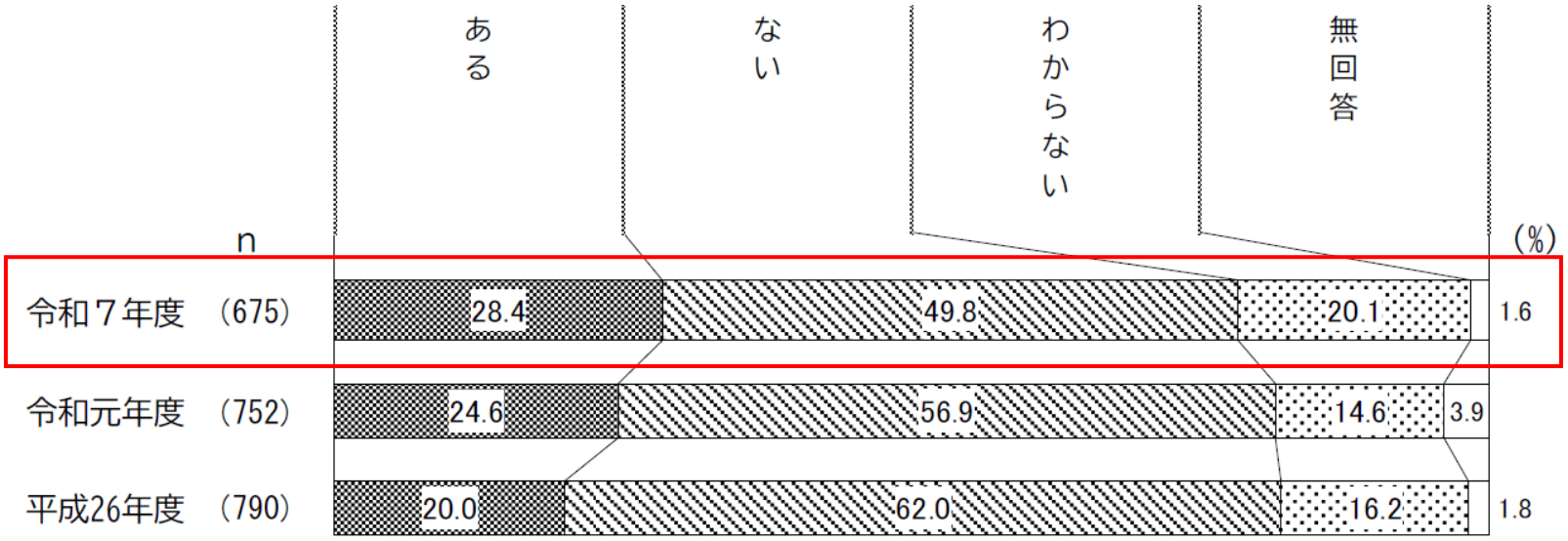
H12年	H22年	R2年
36％	44％	52％

⑤ 多様性の視点

＜アンケート結果＞　**「墨田区人権に関する意識調査（令和７年度）」より**

◆ 人権侵害を受けたと感じた経験は「ある」が28.4%
「ない」が49.8%、「わからない」が20.1%
（「ある」は増加傾向）

人権侵害を受けたと感じた経験（経年変化）



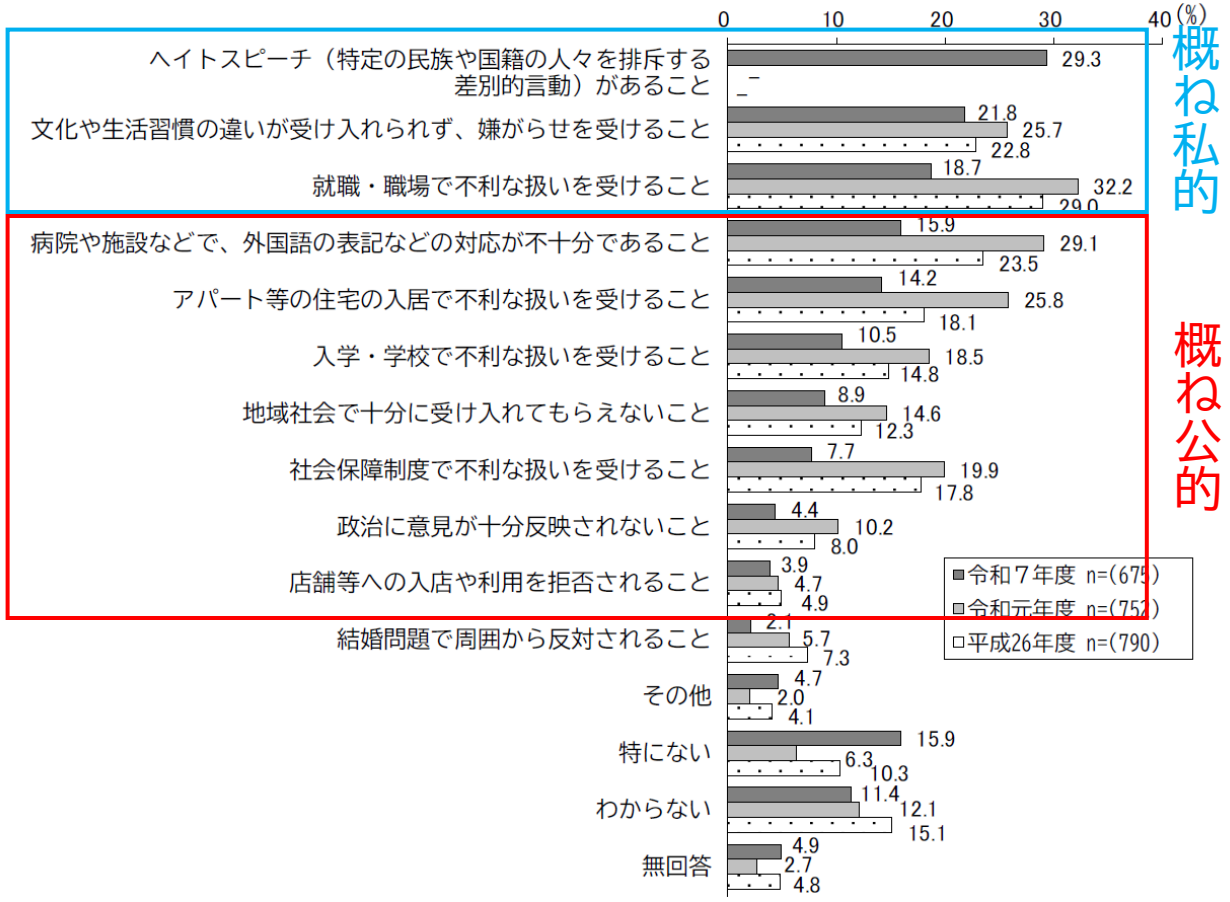
⑤ 多様性の視点

＜アンケート結果＞

「墨田区人権に関する意識調査（令和７年度）」より

◆ 外国人に関する人権上の問題点は、公的な内容よりも、私的な内容の方が高い傾向にある

日本に居住している外国人に関する人権上の問題点（経年変化）



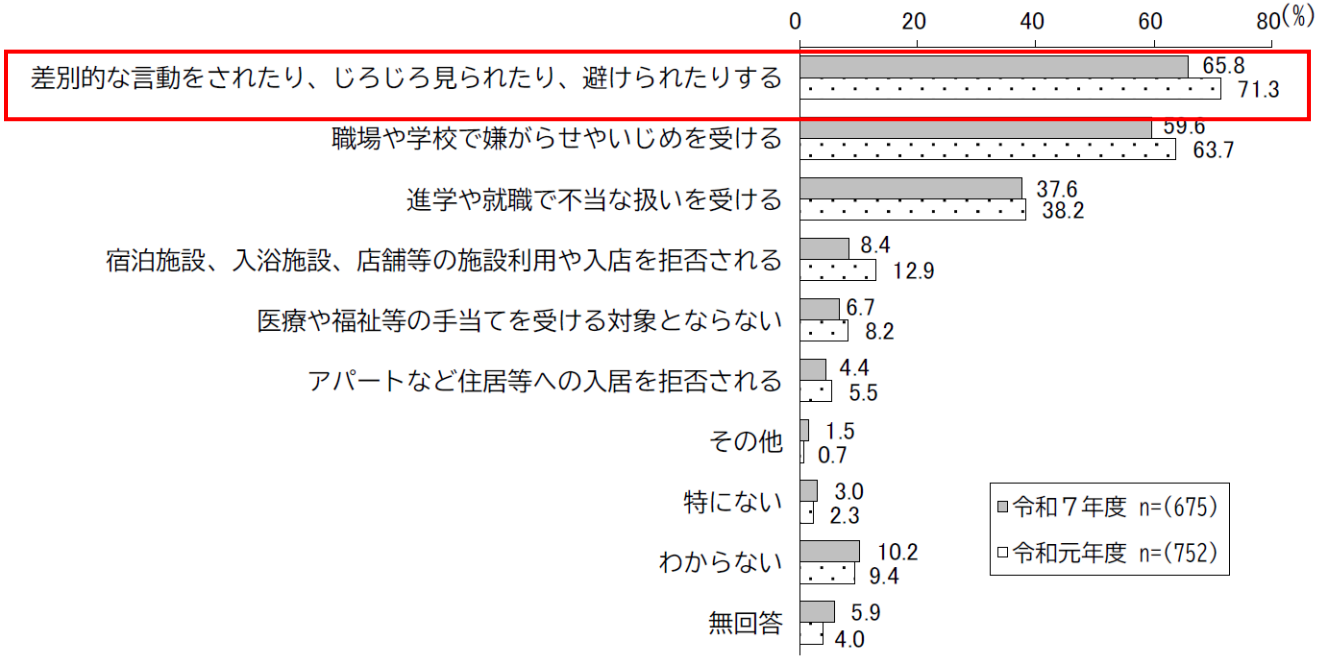
⑤ 多様性の視点

＜アンケート結果＞

「墨田区人権に関する意識調査（令和７年度）」より

◆ 見た目問題を抱える人たちへの差別は、「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」が前回より減少しているものの約６割で最も多い

見た目問題を抱える人たちへの差別



⑤ 多様性の視点

＜今後の方向性＞

- 本計画におけるすべての取組について、多様性の視点をもった事業の実施
- 多様性の視点をもって共生社会を実現していく意識の更なる醸成